

ア・メラノキシロン苗木の生産地別による掘取時期と活着，成育

福岡県林業試験場 ○川 島 為 一 郎
 小 河 誠 司
 山 本 雅 敏

はじめに

ア・メラノキシロンの苗木が，近年県内各地で生産されるようになってきた。筆者らは，このような生産地による苗木が，どのような活着，成育をなすか調査をおこなった。

材料および方法

苗木生産地：①福岡市今宿，②粕局郡須恵町，③浮羽郡田主丸町，④八女郡黒木町

掘取時期：2月1日，2月15日，3月1日，3月15日，4月1日，4月15日の計6回で植付はそれぞれの翌日。

本数及び反復：1区15本の4反復で1地区1回に60本掘取。

植付場所：試験場内苗畑

苗木は各生産地とも1970年10月播種，1971年4月床替され，床替後掘取までに剪定を今宿，田主丸産では1回，須恵と黒木産ではそれぞれ2回実施され，薬剤散布，肥培などの管理は当該発行の普及資料に準じ

た。苗畑の状況は今宿，田主丸が水田の作付転換地，須恵は畑作地，黒木（試験場内）はアカシア類苗木生産継続6年目で，毎年殺線虫剤としてネマナックスを使用した苗畑であった。

根系の発育状態は，今宿の苗木に細根が多く，田主丸，須恵産がそれに次ぎ，黒木産の苗木は細根が少なく3～4本の大きな根が発育していた。

結果と考察

アカシア類の苗木は寒さに対する抵抗性が弱く，生産地の気象条件に影響することが大きいから，掘取日及びその前後の最低気温と活着との関係について気象月報を参照して検討したが，関連性は認められなかった。但し，5月中旬1回目の活着調査では，今宿96%須恵82%，田主丸81%，黒木50%（時期別合計平均数値）で，黒木産の苗木は多くが黒く変色していた。このような傾向は苗木が苗畑で寒害を受けたものと推察される。しかしながら，気温の上昇とともに根部からの萌芽によって成育した。

2回目の活着調査は表Iのとおりで時期別に差は認

表I ア・メラノキシロン活着調査 1972 9.22—23調査

| 掘取月日 | 今 宿 | | 須 恵 | | 田 主 丸 | | 黒 木 | |
|-------|------|--------------|------|--------------|-------|--------------|------|--------------|
| | 植付本数 | 活着本数 | 植付本数 | 活着本数 | 植付本数 | 活着本数 | 植付本数 | 活着本数 |
| 2月1日 | 60 | 57 (95.0) | 60 | 50 (83.3) | 60 | 58 (96.7) | 60 | 52 (86.7) |
| 2月15日 | 60 | 56 (93.3) | 60 | 40 (66.7) | 60 | 52 (86.7) | 60 | 50 (83.3) |
| 3月1日 | 60 | 60 (100) | 60 | 46 (76.7) | 60 | 50 (83.3) | 60 | 54 (90.0) |
| 3月15日 | 60 | 60 (100) | 60 | 46 (76.7) | 60 | 48 (80.0) | 60 | 53 (88.3) |
| 4月1日 | 52 | 49 (94.2) | 60 | 50 (83.3) | 60 | 59 (98.3) | 60 | 32 (53.3) |
| 4月15日 | 44 | 43 (97.7) | 60 | 57 (95.0) | 60 | 40 (66.7) | 60 | 52 (86.7) |
| 総平均 | | (96.7) | | (80.3) | | (85.3) | | (81.4) |

() 内は活着率

表Ⅱ ア・メラノキシロン産地別成育調査

| 掘取 月日 | 今 宿 | | | | 須 恵 | | | | 田 主 丸 | | | | 黒 木 | | | |
|----------|-------|------|----------------|---------------|-------|------|----------------|---------------|-------|------|----------------|---------------|-------|------|---------------|---------------|
| | 植 付 時 | | 9 月 | | 植 付 時 | | 9 月 | | 植 付 時 | | 9 月 | | 植 付 時 | | 9 月 | |
| | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 | 苗高 | 根元径 |
| 2月1日 | 34.4 | 1.02 | 106.7 (310) | 1.23 (121) | 33.9 | 0.78 | 88.7 (261) | 0.97 (124) | 34.8 | 0.91 | 104.4 (300) | 1.13 (124) | 35.9 | 0.99 | 63.4 (177) | 1.21 (122) |
| 2月15日 | 38.2 | 0.97 | 91.8 (240) | 1.18 (122) | 39.7 | 0.79 | 71.7 (181) | 0.92 (116) | 46.2 | 0.82 | 84.9 (184) | 0.97 (118) | 37.3 | 1.04 | 57.9 (155) | 1.17 (113) |
| 3月1日 | 35.6 | 0.94 | 104.3 (293) | 1.15 (122) | 36.0 | 0.76 | 77.4 (215) | 0.90 (118) | 38.2 | 0.84 | 85.1 (223) | 1.01 (120) | 37.2 | 0.97 | 59.5 (160) | 1.11 (114) |
| 3月15日 | 35.1 | 0.98 | 123.6 (352) | 1.32 (135) | 36.7 | 0.85 | 86.3 (235) | 1.02 (120) | 39.3 | 0.78 | 92.7 (236) | 0.93 (119) | 34.8 | 0.90 | 57.7 (166) | 1.04 (116) |
| 4月1日 | 35.3 | 0.90 | 122.5 (347) | 1.25 (139) | 35.9 | 0.79 | 95.3 (265) | 0.97 (123) | 30.2 | 0.93 | 113.4 (376) | 1.17 (126) | 32.8 | 0.81 | 65.5 (200) | 1.01 (125) |
| 4月15日 | 39.1 | 1.09 | 118.3 (302) | 1.37 (126) | 38.6 | 0.93 | 101.4 (263) | 1.08 (116) | 38.0 | 0.86 | 95.9 (253) | 1.08 (126) | 34.5 | 0.96 | 64.4 (187) | 1.12 (117) |
| | | | (307) | (128) | | | (237) | (120) | | | (262) | (122) | | | (174) | (118) |

注 1 単位 cm 2 () 内は成長率

められないようである。

田主丸産 4月15日の活着が悪いのは 4月12日に掘取仮植された苗木を供試したためと考えられる。4月1日黒木産の活着の低い原因については明らかにすることが出来なかった。苗木の成育については表Ⅱのとおり、今宿産、田主丸産、須恵産、黒木産の順であった。このような成育の差は、今宿、田主丸が1回の剪定で、その後の成長によって、掘取当時1m前後になっており、そのため苗木の体内充実がなされたものと推察される。

須恵産と黒木産は同じような苗木の状態であったが黒木産は前にも述べたように、寒さの影響によって、根元からの萌芽が多いため成育の遅れとなったものと

推察される。

まとめ

従来、アカシア類の苗木掘取は3月下旬頃実施していたが、その年の気象条件によっては2月掘取でも、活着、成育に支障のない産地のあることが認められた。

今回の調査では、苗木掘取後その翌日には植付を完了しているから、今後の課題としては黒木産苗木のように、寒害を受けたと認められる苗木が、梱包され幾日程度の輸送まで耐えるかという点が考えられる。

参考資料：気象月報